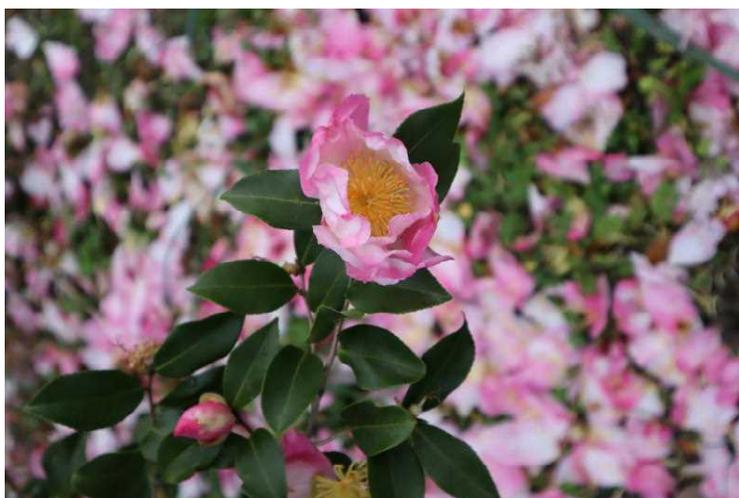


江北の四季

令和2年

11月22日

第34号



紅白のサザンカは樹上も地上も満開



白いサザンカが咲き出しました



ヤツデ(八手)の白い花(蕾)



早咲きの椿



サザンカは庭に元気を与えます

○第五十七候、立冬、末候、金盞香(きんせんこう)ばし きんせんかさく)
橙色や黄色の花を次々に咲かせるキンセンカ(金盞花)ではありません。昔、中国では、白い六枚の花びらを銀台に、その真ん中にある黄色い冠かんむりのようなものを金盞(金色のきんせんなさかずき)に見立て、この花を金盞銀台きんせんぎんだいと、呼んだそうです。スイセン(水仙)のいわれは、きれいな花の姿と芳香がまるで水に住む仙人のようなどころから来ている。別名は雪の中でも花をつけることから、雪せつちゆうか中花。学名はNarcissus(ナルキッソス)。ギリシャ神話の登場人物です。彼は、様々な女性に言い寄られる程、非常に美しい青年でしたが、水面に映った自分に恋をしてしまいます。自分自身に恋こがれた結果、水面から離れられなくなり、その場で生涯を終えてしまいました。その後、彼がいた水辺にはうつむいたような姿のスイセンが咲いたという事です。ナルシストの語源です。



スイセン(水仙)



この一株は早い

其のほひ桃より白し水仙花

水仙や白き障子のとも映り

松尾芭蕉(二句とも)

庭の日本水仙は葉を伸ばしつつ花茎を立ち上げてきたところ。正月に使おうと思っ
ていると、十二月末の雪で折れてしまうこと
が多々あります。

ご存じのように、池坊では「陰の花水仙
に限る 賞美すべき花なり」と、『生花七種
伝』の伝花として特別な生け方があります。
年に一度、正月に二株生けをしますが、何年
やっても難しいと感じます。葉の長短、ねじ
れ具合がピタッと心の琴線に触れたときの気
持ちは、やっぱり冬のとびっきりの花だと思
います。「一輪にて数輪に及ぶならば、数少
なきは心深し」、満開の華やかな花々よりも、
一輪に思いを込める華道の精神に触れるとき
でもあります。日頃は新風体で季節の花々を

適当に楽しんでいられる身には、初心に帰るとき
でもあります。

スイセンの生花が花の原点を学ぶ場である
なら、立華十九箇条の水仙一式は池坊立華の
伝統の重みを感じるときでもあります。花で
適当に遊ぶ日頃の軽い気持ちは吹き飛ばし
て、やるぞ、生けるぞ、と士気を高めて、終
日の覚悟がないと生けられません。

冬に向かい花の少ない時期となりますが、
椿、水仙、梅、山菜萸と漢字の似合う伝統
的な花が登場します。冬場はこれらの花を用
いて、一枝、一葉に注意を払い、正風体をゆ
っくり丁寧を生けるのもいいかもしれませ
ん。



ミゾソバ(溝蕎麦)

○ミゾソバ(溝蕎麦)

田んぼの用水路がコンクリート化され、見
ることが少なくなりましたが、土のままの用
水路や水辺にはまだまだ残っています。名の
由来は、溝に成育し、葉がソバに似ているか
ら。葉の形が牛の顔に似ているからウシノヒ
タイとも言います。子供にとってはコン
ペイトウグサと呼ぶ方が自然です。近寄って
みるとまさに金平糖そのものです。



アザミ(薊)

アザミは日本には百種類以上あるそうですが、こ
れは？ ノアザミ(野薊)でしょうか。



ヨメナ(嫁菜)

これらはどれも長い間、道端を楽しませてくれま
したが、もうすぐ店じまいですね。



ユキヤナギ(雪柳)も色づいてきました



新風体の根元に置きたいですね。
立華

ミセバヤ

キウイよりやや小ぶりの実がなります。半分は切って、スプーンですくい取って食します。大人の味としか言えません。



フェイジョアの実



カラスウリは、夏の夜の間だけレースのような白い花を広げ、秋になると卵型をしたオレンジ色の果実を実らせませす。なんと、庭のムクゲの葉が落ちたら、中からかこの実が出てきました。灯台とうだい下もとく暗くらしです。鳥がいつか糞と一緒に種を落としてくれたようです。残念ながら苦くて食べられません。



カラスウリ(鳥瓜)の実

○見もの、いや、実物

サルスベリ、ヒオウギ、ヒベリカム、ツルウメモドキ、菊、ヤツデ、茶、ギボウシ
☆十一月二十四日(火)は十日とおか夜んやです。請こ晴う天ん。



立華新風体



ツルウメモドキ

